

幼見之教育



第 九 號 十 月 號 第 四 十 四 卷

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

第 九 號 幼 兒 教 育 第 四 十 四 卷

(次 目)

艦上戦闘機「日本幼児號」命名式に列して……………	陣友音信(三)……………	秋の幼児の健康……………	東京都立第一高女戦時託児所から……………	戦時保育所二ヶ月の雜感……………	幼児に對する時局教育……………
倉橋 愨 三(二七)	倉橋 愨 三(四)	關 登美子(三)	小沼山陽子(六)	留岡よし子(三)	倉橋 愨 三(一)

幼児に對する時局教育

倉 橋 惣 三

時局教育の方向は二つである。時局への教育は時局による教育である。實は必ずしも二つでなく、相連つて一つである。さいふが正しく、時局によつてこそ時局への教育が徹底せられ得るのであらう。が暫く考への便宜から二つに分ける。

この二つの方向は、幼児に對しても適用せられる。幼児教育も當然時局下の國民教育たる以上、時局への方向に向つて教育せられなければならない。時局下の國民生活は、つまり國體護持、積極國防の精神を實踐に他ならぬ。この意味において、時局への生活方向は、決して非常時局的のものたるに限らない。時局は國民生活の白熱點に他ならない。即ち、時局への教育は白熱状態における國民教育である。幼児の教育も、國民として、いつでもよく強く戦へる國民として指向せられてゐるものでなければならないことは言を俟たぬ。幼児教育者の遠くを見る目は、必ずそこを凝視せられてゐなければならない。

しかし、實際に戦ふ國民たらしめることにおいて、幼児の場合は、たゞへば青年の場合と、おのづから異なる。その目的の距離において、青年教育の如く徹底直面しない。方面は必ず時局へであつても、その實現は青年の如く今日を期しない。之れに比して、時局による教育は、幼児の場合と雖も今日のことである。すべての國民に對して現在であるに等しく、幼児に對しても現在である。今日のこの一刻を忽せに出来ない。眼前のこの一事を看過してはならない。この偉大なる現在をして常に幼児を教育させなければならないのである。時局による教育こそ一般に幼児への徹底性の著しさを思はしめるのも此の爲である。しかも、この徹底によつてこそ、時局への教育方向も正しきを失はないことを得る。幼児に對する時局教育において、先づ時局による教育に細心の用意を強調しようとするのもこの所以である。

幼児教育の環境性は論ずるまでもないが、この時局はさう大きい、強い、そして最も生々しい環境が他にあらうか。國を

擧げて戦つてゐるのである。總力を合せて戦つてゐるのである。勝利のためにのみある日々の生活である。一切が勝つための専心であり、努力であり、大和であり、耐乏でもある。國民のこの時局的積極性を、幼児ながらに、正しく感觸せしめなければならぬ。朝に夕に逢遇するこゝは、傳へられるこゝは、國民精神の突進であり、爆音であり、歡呼であり、憂心である。それらを、幼児ながらに正しく看、誤りなく聴き、後にほんごうに熟するやうに受け取らせなくてはならない。而して、この時局の大環境を、最も眞實に、又幼児に適正に媒ちし傳へるものが幼児教育者である。

幼児に對する時局教育者として、今日の保姆諸君の責任は重大である。それが假りにも謬つたら、國民教育者としてこんな大きな罪はない。謬らずとも、足りなかつたり弱かつたりしたら、その職に背くものである。健康保育、情操保育、又知性保育の平時的教育技能に習熟の上に、時局教育の新しい工夫に練習は、今日の保姆諸君の大きな研究に精勵しなくてはならない。しかも密に恐れるに、現に幼児が置かれてある家庭環境にしても、社會環境にしても、必ずしも悉く、時局による教育の正しき力強きを完具してゐるこゝいひ得ない間隙もないでもないのである。勿論それらは時局國民生活の例外であり偶々の過失に他ならない。成人達の不用意な言行に過ぎない。或はまた、成人としては深い時局觀の、ほんの薄い上皮であるに止まるであらう。しかし、それが、純眞なる幼児の心に映ずる結果は、そうした輕さに終らないのである。われらは、卒直の事實として幼児等がそれを反映復唱してゐるのに會ふて慄然とするこゝもあるのである。國民教育者たる保姆諸君は、之等のこゝにも備へなければならぬ。その誤謬を除き、その歪曲を訂正してやらなければならぬ。そしてそれを覆ひて餘りある程に、正しい時局の取次ぎに、幼児の目と耳と感情と理性とを包まなければならぬ。

幼児に對する時局による教育のために、その方法も、施設が有效であるこゝは素よりである。しかも、そのために何よりも一番大切なこゝが、幼児教育者自身の最も正しく且つ最深烈強烈なる時局認識も、不斷の時局知識もであるこゝは言を俟たぬ。この點で、對象は幼児であり、その教育の實際も幼兒的であり、その徹底も幼兒的ならざるを得ないが、あなた自身の時局精神、時局觀、時局理解は、國民として最高のものを常に貯へもし、怠らず攝取してものなければならぬ。

斯くてこそ、幼児に對する時局への教育もおのづからに強く正しく出来るのである。

戦時保育所二ヶ月の雑感

留岡 よし子

幼稚園といふ可愛い、なつかしい呼名に別れて、戦時保育所といふ標札の許に早、二ヶ月、あわたたしいこの二ヶ月を振り返つてみる。

四月五月、幼稚園であつた時も、六月七月、戦時保育所になつてからも、私の氣持、戦時下であるといふ緊張感、責任感に變りはない。毎日の保育の上に、防空の訓練の上に。

女學生の保育實習指導についても同じこと。たゞ、園児と託児には當然變化があつた。

まづ園児二百名が、託児百二十名になつた。保育所入所資格者である「保育條件の免除又は不足せる家庭」の子供が、所屬町會長の證明付で定員百二十名集つた次第。

保育時間の八時始が七時始になり、四時退が七時退となつた。尤も、幼稚園の時も、必要に応じて四時退でも、預る事にはしてゐた。

日曜日廢止が變化の一つ、託児の方には、三歳未満が目下二名ゐる。これが變化の一つ、それから、おやつとして、味噌汁を與へることが出来る様になつた。それが目立つ變化の一つ、それから幼稚園の時は、過去十四年間會て一度、幼稚園視察といつて當

局の責任者が來園された覚えがないが、戦時保育所となつて二ヶ月に滿たぬに、文部省、及東京都廳から、それ／＼の責任者の方が數名來所されたのが目立つ出來事の一つ。(私の方は、女學校附設の保育所で、文部省と東京都教育課の監督下にある)

今、その變つたことを一つ／＼追つてみる。

幼稚園の時だつてあの時間内、子供を預るといふ事丈で、つまり託児の意味丈で十分家庭の手助けとなつてゐた事には間違ひはない。現今、有閑の主婦があらう筈もなし、複雑なこの頃の主婦の足手まどひになる子供を預る事に依つて、どんなにか主婦は能率を上げ結局、家庭は朗らかに、ひいて直接生産、職務に當る主人の能率も悪くはなかつたに違ひない……が、やつぱり、早朝、工場に行きがけに、子供を預けて、薄暮流れる汗を拭ひもあえずに、子供を受取りに來られるお母さんをみると、やつぱり、この仕事の仕甲斐を生々しく感じないではゐられない。

「主人が出征したのです。この子を預つて下されば明日からでも工場へゆきます。」

満員? でもこちらは私の様な者の子供を預つて下さる所なのでせう、今來ていらつしやる方は皆、私の様な者許りでせうか?

つめ寄る顔付の眞剣さ、「ごなたも證明のある方許りですが、缺席なさる方もありますから、ではお預りしませう……といへる範圍、いはざるを得ない。

まだ二ヶ月で、はつきりした事は云へないが、かうして入所して来る子供の言葉、仕事をみてゐると、線の太さ、ある、たくましさを感じる一面、野卑、粗野を感じる、美點を失はずに、幼稚園の頃からのこの雰圍氣に早く、溶込んでほしいと思ふ。

「少し體を悪くして醫者に、ゆつくり寢る様に……と申されましたも、三人抱へてゐては寢んでは居られませんが、今日はおかけ様で、朝から、只今まで、ぐつすり、寢ませて頂きました！」と、日曜日の夕方、出征遺家族のお母さんの嬉しさうなお迎へ。

「毎日御勞れでせうね、御主人からお便りありますが、お母さん御無理なさらない様に！」無理なさらぬ様といひ乍ら、せすに居られないのだ……と胸が迫る。涙さへ浮べて、一人を背負ひ、二人を左右に伴つて歸つてゆかれる後姿を見送つて、居残り當番の若い保母のホツとした微笑に打つつかつて、「あなたも本當に御苦勞様」どうれしい氣持になる。

保育所になつて以來、當番の保母が、當番を終へた後、次々と仆れた。一人の保母は神經衰弱の様になつて寢つかれない……といふことで、心配した。これは必ずしも保育所になつたこと許りの原因でなく、折から、氣候も悪く、丁度四月以來の氣の勞れの出る時期であつたかも知れないが、新米の保育所主任の處置不當の難は免れない、保母の人数と仕事の量、保育内容といふ點で考へさせられた。とにかく、保母の緊張度は高い、高くて長いのだ

から。

「今日のお味噌汁は南瓜だ、南瓜をいしいね、南瓜甘いよ」はじめて、南瓜の實だつた時の、子供達の喜び様を眺めて保母一同啞然とした。

南瓜甘いね……そうだ、この頃甘いものといへば南瓜だ。嬉しそうな笑顔につられてほへんだ我々が、やがて、いちぢらしさに泣けて来る……がこれも、つい昔を思ふ大人の感傷、大東亞戦下の子供達は、何の不平不満もなく有がまゝを受入れて、強く育つて行くものを、「今日のお味噌汁の實はお姉さんと一緒に、女學校の畠へ行つて頂いて來たの」といふ日もある。頂いたといふふだん草そのものは、そうよい味のものではないが、こゝでは特別のいしさを覚えるらしい。

お晝寢から漸く覺めたカツチャン、まだ眠さうな目をこすりこすり何やらぶつ／＼つぶやいてゐるのをよく聞けば、

「ボクノオミオツケ、ボクノオミオツケ……」

たつた一杯のお味噌汁が、どんなに、子供達の心を、體を、養つてくれることか。

「どうですか、生産増強に役立つてゐますか。女學生の實習狀態は！」

と、御多忙な半日を割いて觀察に見えた事に對して、まづ敬意と感謝を覺える。たとへ、お役人の方では、職務上當然の仕事の一つとして來られたとしても、「ほほう やつてますね 女學生が！」

「はあもう、みんな楽しんで働いて居ります」ある女學校の保育

所では、女學生が實習に来て、保姆の疑けたことをこわしてゆくから困る、といつてゐましたが……。」

「そういう聲は、私も聞いて居ります、女學生が邪魔になる、來ない方がいゝといふのですが、つまり女學生を指導してゆく力がないといひますか年齢からいつても、女學生と、いくつも違はない、どうかすると同じ年なんといふ保姆さんには一寸、うづつ、うしい感じがするんでせう。」

「なるほどかうしてくれどか、あゝしてはいけないとか云へない……。」

「そうです、一寸無理かも知れませんが。尤も何をいはなくても、保姆のする事を見てゐる丈でよい勉強になりますし、何より子供達の間で生活してゐれば子供達から教へられる事が多いのですから、本當は、女學生といはず、母親になる筈の女の子が皆、一度は、實習をしなくてはならないものだと思ひます。」

「そうですね、所でこちらではどんなにして居られますか。」

「まづ、はじめは、何にもいはずに白紙のまま、豫備智識なしで二回見學して貰ひました。それからその二回の見學についての女學生の感想を聞き、保育所の保姆一同の女學生見學批評なるもの……主として種々の注意、を話して聞かせ、そこではじめて、今年から保育實習制度の出來た理由、何故に現下の貴重な時間を割いて、この制度が設けられたか、國家が女學生に何を要求してゐるかを話して確り覺悟を定めて貰ひ、今度は改めてその氣持で、數名づゝ交代に實習をはじめました。週一回一級づゝ保育に關する種々の講義、防空に關する處置、技術の習得、(歌、手技、童話

遊戲等)をまづ以つて一通り致しました。そして又實習の批評をし、女學生は記録を記して、私共の方へ提出し、それに對して批評する……といふ様に只今の所やつて居ります。」

「はあ、それは大變いゝやり方の様ですな。」

「まあ最初の試みではあり、殊に、今日にも空襲があれば、すぐに子供達を守らなければならぬ人達だと思ふと、この一年間の豫定を定めて、順を追ふてゐる暇がない様に思はれ、まづ大體のみこんで貰ひ、まだ平穩であつたら、次にはもう少し深く……といふ様に時局とにらみ合せて進めてゐる所でございます。」

「子供達はなつてゐますか。」

「もう、お姉さんといつて大喜びで居ります、茲に實習記録がございすから、お讀み下さればお解りになりますが、まづ十人が十人、子供が好きでなかつた人も子供から好きにさせられてしまひます。」

「實習生は毎日代るのでせう。」

「はあ、交代になつて居ります、それで面白い事は、私共は毎日同じ人が實習に來るのなら、子供達も親しめるし、我々も慣れてくれゝば何かと都合がよいに……と考へるのですが、毎日代るといふことは大人の方で不便を感じる丈、子供達は、昨日のお姉さんも今日のお姉さんもないたど「お姉さん」として受入れて、顔の違いは意に介さないらしいのです、服装が同じ様だからかも知れないと考へてます。」

倉橋先生にこのお話をしましたら、先生も「それは面白い發見だ「制服のお姉さん」か、何でも、やつてみなくてはわからないもの

です、それはいゝことだ」と仰有つて居られました。」
お姉さんの實習記録は實に面白い、また尊い、文部省の神馬氏は非常に興味を持たれて、あれを纏めてみたら面白い参考になるでせうといはれた。

戦時保育所として、生産増強の一面に挺身し、一方女學生の實習指導に當るこの仕事、二ヶ月の雜感。

東京都立第一高女戦時託兒所から

赤山 陽子 記

子を貢ふて歸る母、疲勞に仆れる保母、工場に行くより勞れるといふ女學生、そして、絶えず、あゝして、かうしてと只管に思ひにふける私自身、みんなく「戦勝」の輝しい二字をみつめて、楽しく過してゐるのです。
(筆者は十文字高女附設戦時保育所主任)

一、受託幼兒

1、收容人員

定員五〇名

2、年齢

四歳より七歳まで

一年保育

一五名

二年保育

二三名

三年保育

七名

3、受託條件

○時局重要産業従事者にして保育條件の缺除又は不足するもの。
○應召、應徵家庭にて保育條件の缺除又は不足するもの。

○保育責任者(家庭婦人)が勤勞に従事し、保育條件の缺除又は不足するもの。

右の幼兒にして所屬町會長より託兒を要する家庭なる事を證明せられたるもの。

應召家庭

二五パーセント

應徵家庭

一八パーセント

外に於て重要産業

二六パーセント

家庭に於て重要産業及び其の他家庭内職

二九パーセント

父死亡の爲母勤勞

二二パーセント

4、保育料 月額四圓五十錢、但し規程に従ひ減免あり。

二、職員組織

所長 學校長

主任 一名

保姆 二名

(助手 一名)

囑託醫 一名

衛生婦 一名

小使 三名

(實習生徒 四名 一週間交代)

三、保育時數及び日數

午前八時より午後四時まで

休日 一月一日(各日曜日)

託児の家庭の實情調査の結果、保育擔任者が家庭内職者又は、比較的短時間の勤務者なる爲、所長の認可を得て日曜日は特別の希望なき時、休所す。

四、保育日課

午前八・〇〇 — 九・三〇登所、自由遊び

九・三〇 — 一〇・〇〇お片附。御不淨

一〇・〇〇 — 一一・三〇保育(後に説明あり)

一一・三〇午後 — 一・〇〇中食、自由遊び

一・〇〇 — 二・〇〇組別保育(夏季は午睡)

二・〇〇 — 三・三〇お入ツ、自由遊び

三・三〇 — 四・〇〇お支度、お歸り。

(一〇・〇〇 — 一一・三〇間の保育の方針は

一週間に 唱歌 毎日

遊戯 二回

手技 毎日

談話 二回
運動 三回を入れる)

五、設備

(イ)保育室：：鐵筋コンクリート校舍一階西南隅の一室にて二十坪。

長所、割合廣く、明るい感じ。

短所、1、室からすぐ外に出られぬ。

2、室内に流しがない。

3、窓、黒板が高すぎる。

4、隣が教室の爲(氣兼ねがある)女學生がのぞく。

希望として

一、獨立した建物が欲しい。

二、ラジヲを室内に備へて利用したい。

三、室内に流しが造りたい。

(ロ)屋外砂場及び園藝用地

體育館裏の花壇を砂場に改造し二十坪餘を柵を以て圍み、植込の前に國旗掲揚柱を新設す。

長所一、前に花壇だつた爲、樹木が多く、自然觀察に適してゐる。

二、日が充分に當る。

短所一、花壇を砂場に改造した爲、小さく區切られてゐて廻りの石が高い。

二、近くに用水池や、防火用の大井戸がある。

三、保育室から約二十米位、離れてゐて、校庭を横切

る爲、自由自在には行かれぬ。

(二) 便所

保育室側に新設す(経験者の設計による)、しかし未だ使用出来ぬ爲、女學校のを借用してゐる。

(三) 給食方法

調理室は、學校購買部調理室を借用し、保育實習生之に當る。晝食の副食物及び間食を供す。

給食材料は厚生事業協會より指定配給せらるゝも今日まで野菜、卵、味噌、醬油、砂糖(四月以來一回のみ)のみなり。速に鹽、油、魚類等の配給せらるゝことを希望す。

猶、今日まで給食用燃料の支給なく、購買部の燃料を借用中にて現状のまゝにては永續不可能の見込みなり。

(ホ) 其他

保育實習生徒のため隨時専門家の講演、指導を仰ぐ豫定なり。

〔託兒所の一瞥〕

午前八時、校門を入ると女學生の嚴肅な朝禮の雰圍氣に先づハツと胸を打たれる。整然と列んだ女學生達の張切つた顔は毎朝私を「今日も一生懸命にやらう」といふ何か楽しい氣持にさせてくれる。校舎の中を通つて一番はづれの保育室へ行くともう二三人の子供達が来てゐて何やら跳はねてゐる。「お早様ございます」とこちらから大聲でいふと氣が付いて、「先生お早様ございます」と御挨拶しながら寄つて来る。東向の部屋なので朝日が一ばいに射込んで來てゐて氣持がよいけれどもみるからに暑さである。子供達に手傳つてもらつて、椅子を机の上から下す、窓を明けるなど整頓する。お机をふかうとバケツに水を汲んで來ると「僕にさせて……」などと却つて男の子供の方が手傳ひたがつて大きわざしたりする。やらせると覺束ない手つきながらなかなか上手にしてくれる。五人、六人とだん／＼に家の近い同志が連立つて賑かにやつて來る。綺麗に洗はれた顔を天花粉で眞白にしてゐたりして氣持のよい子もあるけれど、家でかまはれないのか朝から手足の眞黒に汚れてゐる男の子などもある。早速、近頃、區役所から來た積木の箱をワツシヨイ／＼と持出して始める一群がある。椅子をみんな寄集めてしまつてあちらで何やら始める子達もある。お庭へは自由に出入り出来ない。積木といつても少し／＼か無い。そこで子供達はお部屋の中でのみ結構樂しめる事を考へ出したのだ。椅子を積んで、お書齋用のゴザでかこつて戦車、潜水艦など、いつて男の子達はまるで夢中だ。幅廣く長く並べた椅子の上を滑走路にして、兩手をひろげて飛行機になり、ブーンと飛立つたりしてゐる子供もある。女學校の先生の御注意を受けてやめさせなければ前には色々高く積上げて随分素敵な戦艦など作つたりして驚かされたものだ。先生に遊んでもらはないでも自分達で上手に遊びを見付け出してゐる。幼稚園と違つておすべりもブランコも特別には無いのだけれど。私達など一しよに入つて行けない様な氣がする。寒暑らしく眞剣なお部屋遊びをする天才であると感じてゐる。女の子達はやはり私達のまはりにくついて、御本を讀んだりするのが好きである。でもみんな大體にのび／＼としてゐる。時には耳がガンとする程の聲でお部屋が一ばいになつてしまつたりする。でもいくらかけまはつても、お部屋と前の廊下のみ狭

い範圍である。少し走り過ぎてあちらの方まで行かうものなら、早速呼び戻さねばならない。大切なお授業のお邪魔になるのだから。保育室のすぐ傍に階段がありよく子供達は無意識で上りかけるけれど、これも押へなくてはならない。こんな點、誠に可哀想だけれど女學生との共同生活だから巴むを得ない。ちよつとつかりしてゐると隣の教室のドアの所へ二三人行つてゐてお講義していらつしやる先生を「オーヂヤヤン」と呼んで嬉しさうにしてゐたりすることがある。何時も可愛がつて下さる女學生の顔を見つけて、「お姉ちゃん〜」と盛に呼んだりもする。そんな時は、おかしいやら、恥しいやらでいきなりその子達を引張つて來てしまつたりする。でも子供達には何故そうしてはいけないのかよく判らないらしい。

お片付けをして御不淨へ連れてゆく。御不淨といつてもちよつと遠いので大體時間を定めて皆一緒に連れて行くことにしてゐる。お授業中の教室の前を五つも通らねばならないので、気が氣でない。でも靜かに、とよく教へると、ぬき足、さし足で夢中になつてそつと歩くので可愛らしくなつてしまふ。

「お早様ございます」をして出席をとる。(これは朝禮的にお行儀をやがましくしてさせる)男の子達は聲を競つて顔中口にして、體まで動かして「ハイ」と元氣よくお返事してくれる。

「お唱歌」案外覚えが早くよく唱ふ。一年保育の女の子がやはり一番早く覺える様だが、大體全體を通じて同じ位であり不都合を特に感じない。

「手技」(ぬりえ) は二種類作つて「一年保育」

「二年保育、三年保育」と區別してさせるが、大きい子達は「チビ組今日は何ぬるの？」などと言つたりして、至極仲よく、我儘言つたりする子は無い。大きい子供達は一枚では飽き足りないのか大抵、年少組の分までぬつてしまふ。はじめは依頼心が強く自分で仕様といふ氣があまり無いらしく困つたけれど、近頃はもう自分でぬるのが嬉しくてたまらないらしい眞剣さを見せてゐる。

(自由畫)では年齢の違ひを随分感じさせられる。一年の違ひで内容が随分豊富になつてくるものである。二年保育三年保育の子供達の中にはまだ〜とまよりの無いものを描く子がある。全體的に自由畫はあまり感心出來ない。

(缺仕事)などは同じ目的物で程度を違へてやらせたりしてゐる。(一保の子にははらせる所を二保の子にははつてあげるといふ様に)同じにさせると、一年保育の男の子などもつと何かしたいらしく「自分でする」といつてゐるのに小さい子供の所へ行つて「やつてあげるよ」などと言つて亂暴を働いたりする。一部屋で一緒に別のことなさせるのは難しいからやはり組別保育の研究が必要になつてくると考へてゐる。

「お遊戯」机を寄せてお部屋の中でするので場所が狭く充分にする事は出來ない。今は全部の子供を一緒にさせてゐるけれど、小さい子供を標準にしてしまふ傾向があるから、だん／＼分けてする事も研究したいと思つてゐる。皆とてもスキップが好きで、お遊戯の時から「スキップ〜」といつて落付かなかつたりする。女學校の校舎の一隅で幼児達が割になつて歌つたりおどつたりしてゐることは随分女學生達には珍らしいらしく、丁度お休み時間

になつたりすると澤山、ドアの所へ群つて可愛い、様子に見入つてゐる。私達に見れば、少々迷惑に感ずるけれど、子供にとつては別に見られ様が意に解さないらしい。女學生にとつては幼児達は大きな刺戟物であらうけれど、子供達にとつて女學生は唯、大きいお姉さん達であるだけで何でもないらしい。民学校附設より女学校附設の方がお互にすつとよい様に思ふ。

「お食事」

女学校なので何にしても子供には大きすぎる。手を洗はせるにも水道にとどかない。でも高等科の實習の方が毎日おみそ汁を作つて下さるので皆でいたゞくことが出来る。子供達は普通のお辨當を持つて来る上にそれだけいたゞけるので、毎日食卓は賑かである。お食事前のお行儀のよきは格別で三年保育の子に至るまでみんなが他人の手を借りずにつつかり御用意出来る。毎日お當番さんを二人定めておいて、先生の代りに「お上手にいたゞきませう」、「兵隊さんありがたう」をしてもらふ、自治の形式でこれはよいことだと思つてゐる。

楽しいお食事、とても静にこぼさずいたゞける。

全部の人が終るまでお席についてゐることも自然に上手に出来る様になつた。「御馳走様」もお當番さんに前に出てもらつて一しよにする。おみそ汁のお茶わんは割るといけないので、私達が片付けることにしてゐるけれど、面白がつて澤山お盆に載せて危ふげに運んでくれる子供もある。

午後はお外で遊ばせる。運動場をつきつて裏の畑の所へお砂の玩具を持つて行く。日射が強い中でも子供達は割合平氣で山を

作つたり、おだんごやをしたりして遊ぶ。ひまはりが今をさかりと咲いてゐる。塀の際に作られたカボチャには氣持のよい程大きな實が澤山なつてゐる。手入してないのでねこじやらし、などの雜草であたりは一ぱいになつてゐるけれど、パツタ、トースミを追つたりして却つて子供達にはよい遊び場になつてゐる。でもやはり廣い場所ではないので自由にかかまはることは出来ない状態ので可哀想に思つてゐる。日蔭がなく、あまり照らされすぎる感じがするけれど皆何だか蒼白い顔色をしてゐるので、少しやけた方がよいだらうと思つてゐる。一しきり遊ぶとお片附。手を洗はせてお部屋に入る。

「おひるね」

子供達を御不淨へ連れてゆく間に部屋にゴザを敷き、家から、持つて來させてある、おふとん、枕を並べて用意する。子供達は歸つて來ると自分の場所を探して嬉しさにごろりとねる。「手と足をのびして、さあお目々をつぶりませう」といふと皆素直にさうする。お話したり、騒いだりする子も少く、もう習慣になつてゐるのでみる間に、やはらかな寢息をたて、寢入つてしまふお利好さんもある。しばらくは、手足や頭がこそく動いてゐるけれども、十分間もたつと朝からの疲れですつかり夢の中へ入込んでゆく。子供の寢顔は、本當に可愛らしいものだ。なか／＼言ふことをきかない子供も眠つてしまふと唯可愛らしい。寢相の悪い子供を直してあげ様としたら、ウーンとねぼけ聲を出しながら、そつと小さい手で、腕を傳つて乳房を探さうとする子供があつたりした。家で眠つてゐる様に安心しきつてゐるのだらうと、かは

いく思つた。明るい眞晝間、あたりの騒々しい時も物ともせず、一時間半ばかりはぐつすりど休む。

時に目をさます子もあるけれど大抵は起すまでよく寝つてゐる。保育室も、おひるねの時間ばかりはひっそりとしてめて工場での物音が急に耳についてくる。

時間が来る。

まだ可哀想に思ふ程よく眠つてゐる子供も多いけれどオルガンを鳴らす。「起きませう」と手をたたく。

「おや」といふ様なびつくり顔が、あちこちに起上つてぼーつと宙を見つめてゐる。中には随分、大聲で呼起さねばならない子供もある。でも寢覺の機嫌の悪い子も特に無く、銘々でおふとんを廊下のロッカーの上へ乾しに持つてゆきはじめる。枕などぐつしより汗になつてゐるものもある。

すつかり片附くと幼児體操をする。そして、手拭を持つて御不淨の隣の洗面所へおかほあらひに行く。皆一人でお上手に洗ひ、天花粉をつけていたゞいて、お部屋へ歸る。廊下で、女學校の先生にお會ひすることなどあるが、午後でも相變らず、「先生お早様」と言つて平氣な顔をしてゐたりするので、おかしい。お部屋には嬉しいおやつが待つてゐる。これも高等科の方の手によつて作られる。随分幸福な子達である、(おやつは時によつて色々であるが、おみそ汁、煮物、シヤガイモ等である)御行儀よくおいしくいただき終ると、お歸りのお仕度。八時頃から、三時すぎまでの子供達にしては随分長時間に亘つた團體生活である。「お仕度しませう」といふ聲を聞くと急に家の人のことでも思ひ出すのか實に

嬉しさうな様子をみる。防空袋も肩に掛けすつかり用意が出来ると、サヨナラの御挨拶をして下駄をはき、外へ列ぶ。警報が急に出了時の用意に子供隣組の様な組織を作つたが、これによつて列ばせて校舎の裏庭を通つて校門まで行く。校門の前できちんとしてサヨナラをする。これで、保育所の一日は終る。元氣に左右に岐れて歸つてゆく子供達の小さい後姿を見送つてゐると、今日も無事でよかつたとほつとする。

○お願ひ

◎本會へ振替にて御送金の場合は、必ず振替料金拾錢を御加算下さい。

◎従來は誌代として一冊につき參拾五錢だけ頂いて居りましたが、昭和十九年四月分から一冊につき、特別行爲稅參錢、送料貳錢、合計四拾錢を申し受けて居りますから御諒承下さいませ。

昭和十九年十月

日本幼稚園協會

係り

秋の幼児の健康

關 登 美 子

「天高く馬肥ゆる秋」と諺にもある如く誰しも秋は健康になるにはよい時節である。秋ほど恵まれた時は無いのである。この時こそ一年中で一番鍛へられなくてはならない時であるし、又健康にもなる時である。夏の間の暑さに負けて弱つた身體の恢復には本當に良い時である。ましてこの決戦の秋、一人の子供も皆丈夫に、御國の子供として完成しなくてはならない時である。そこで普段思つてゐることを申し述べたいと思ふ。先輩の方々は幼児の健康についてどうしたらよいかとか、又いろ／＼の尊い經驗も得ておいでのことゝ思ひます。

食欲ます／＼旺盛な頃であるが、殊更何でも食べるように、平素の偏食癖を直すのによい時機である。柿、栗、葡萄等果實も多く實る頃でもあるし従つて食べ過ぎて胃腸をいため易い。

未熟の果實をみだりに取つて食べない様に注意する。
又出來得る限り戸外で遊ばせるようにする。

曇つた日でも室内にあるよりは良いと思ふ。充分な日光と(秋は紫外線も多いとか)、新鮮な空氣とが必要である。

朝夕は冷え込んで大層涼しいが、晝間は可成暑いこともあるから、衣服の調節を行ふ必要がある。幼児は休むことなしに、元氣

に遊び廻るから汗をかく。汗を澤山かけば、それがさめると身體に水をかけたのと同じことであるから、そのまゝであると風邪をひくのである、涼しくなつたからと云つて、大事さの餘り澤山着せすぎて、かへつて風邪をひかしたり弱くしてしまふのである。陽盛りには上のはぬげる様に(うすいセーター等)して置きたい。蟬とり、オートとり、トンボとりで、正に子供の秋であるが、餘り陽のあたる時は帽子を忘れない様にする。

幼児は大人と違つて絶えず動いてゐるのであるから、充分な睡眠が必要である、大人ばかりの家庭では、よく大人へのお附合で夜更したりする子供もあるが、注意しなくてはならないことである。又寝冷しない様にすることも大切である。

丈夫になるによい時なのであるが、食べすぎ、寝冷、流感に罹り易い。秋に限らず、いつでもであるが、病氣に對しては、早期発見、早期治療が最も大切である、傳染病に對しては、豫防注射も必要であるし、又罹病したら直ちに幼稚園(又は託兒所等)に知らせてそこでは必ず室内消毒を行ひ(石炭酸、リゾール、ホルマリン等)机、椅子などは日光消毒を行ふ、家庭に傳染病者の出た時は申すまでもなく、一定期間保菌者の疑の無くなるまで缺席させる。

弱い子供には鍛錬の秋だからと云つて、急に丈夫にしようと思つて、無理して運動でも急激にするのはいけない。弱い子供は、神経質とか、偏食癖とか、先天的にとか、何か理由があるわけであるから、大人が充分いたはつて、醫師とも相談してその指示に従ひ適當な手段をとるべきである。

子供にはことごと、姿勢をよくする様に導くことが大切で、始終注意して幼少よりの習慣にしてしまふ。姿勢のよいといふことは一生の中にどんなに健康上にも得か、申すまでも無いことであります、それで衣服も身體をしめつけられないものが良く窮屈なのはよくないし時々姿勢をよくする遊びなど考へて行ふとよい。

母親なり、保姆なりの、ほんの一寸した注意、心づかひで子供の健康は如何様にも向上することが出来ると思ふ。この秋こそ、いつもの二倍も三倍も丈夫にして私達の御國に對する御奉公したいものである。

健康とは身體ばかりで無く、精神(心)も健康でなくては眞の健康ではないと思ふ。

身體も丈夫なら心も丈夫でありたい。明るい元氣な子供らしい子供として仲やかに育てたいと思ふ。

(筆者は東京女高師附屬幼稚園保姆)

この空、あの空

秋の美しい空が來ました。

いつもと相變らない秋晴であり、碧空であります。

子ども達は、その可愛い、顔をあげ、そのつぶらな目をみはつて、この秋空を仰いでゐます。強い日を全身に受け、明るい光を一ぱいに浴して、心身に漲る健康な快感に充たされると共に、その高さに、その廣さに、その深さに、その美しさに、どんなにか、心を高く、廣く、深く、美しくされてゐることぞせう。

子どもらに、この空を仰がせませう。空を樂しませませう。空から、學ばせませう。

しかも、子どもらと共に、この秋空を仰ぎながら、わたくしたちの心は、そう晴れやかに、そう澄み通つた感じだけではゐられません。

南の空。北の空。そこには、死を以て空を制しようとする奇烈なる團が、つゞいてゐる。恐らく、今も行はれてゐる。火を吐いて墜落してゆく敵機、それを追ふ味方機。時としては、あゝ壯烈に自爆する、わが勇士の愛機。

その空へ、この空は、眞につゞいてゐる。わたくしたちの心も、この空から、その空へつゞいてゐる。

子どもたちには、なんといひませうか。あゝ大きな空、國土の上を清らかに護つてゐるこの大空、子どもたちの心を、今は兎に角この美しい、有り難い晴空に専らならしめませう。

が、兩方にひいてゐるその小さい手を、つい力強く握るわたくしたちは、いつものように、たゞ、美しい秋空の感激からではありません。

あゝ、あの空。わたくしたちは、子どもたちの手を強く強く握らずにゐられません。(く)

陣友音信 (二)

— わたし共の幼稚園の近況報告 —

倉 橋 惣 三

○この四月以來、東京都の公私立幼稚園が休園してゐるにけつて、わたし共の幼稚園はどうしてゐるか、諸方の陣友から度々のおたづねを受けます。その都度簡単な御返事はしてゐますが、けふは少しくわしく近況を御報告いたしませう。心にかけておたづね下さる御親切を感謝すると共に、戦時下幼稚園の重大な任務をも明かにしたいと思ひまして、こゝにわたし共の幼稚園とは東京女子高等師範學校の附屬幼稚園のことでありますが、一々そう書くのは長々しいし、陣友同志の親しみづくに、こんな言ひ方を許していただきます。

○東京都の問題が、時局の情勢に鑑みた幼稚園の當分の休園であつて、幼稚園の廢止や停止でないことはいふまでもありません。時局の情勢に鑑みといふ理由にもいろいろの内容があるかも知れませんが、空襲必要とされてゐる都下において、幼児の集團生活が危険であることに、何人も異論はありません。そこで當分の間休園といふことも、その慮りからは尤もな對策の一つに相違ありません。

せん。わたし共の幼稚園は官立ですから都長官の管理外ではありませんが、その園児は同じく東京都の幼児であります。わたくし共としても考へなければならぬことは當然でありました。しかし、女子高等師範學校の附屬幼稚園の任務には、一般幼稚園と異なる點もあり、又、戦時下においてこそ國策として幼児保育施設の任務の益々重大化せられる所以もあり、素より休園すべきではありません。但し、その運営は平時と同一であることは出来ません。そこで、文部省の諒解の下に、六月から次の如き臨時措置が講ぜられました。

- 一、極力幼児の疎開を勸奨すること
- 一、遠距離通園者には長期缺席を認めて自發休園を勧めること
- 一、右該當者にて休園を欲しない者には、幼稚園近距離に臨時特別保護者を設定せしめ、非常警報時の處置に備へさせること

と
一、從來の待避壕を一層整備すると共に、幼児の待避訓練を強

化する事

一、家庭の戦時下としての實情に應じ、保育時間を、朝早くより午後遅くまで延長すること

一、右と同一の必要に應じて、夏休を變し特別保育を行ふこと
此の各條項を着々實行いたしたことは申すまでもありません。

○ところが、その後戦局の情勢は愈々熾烈を極めて參り、以上の臨時措置では不十分になりました。そこで、再び文部省の許可を得て、附屬幼稚園規則に改正が加へられ、九月から第二の臨時措置が講ぜられることになりました。これが現状であります。

一、規則改正による學校長の新権限を以て、すべての遠距離通園者に當分の間の休園を命じました。その期間は豫め定めることは出来ませんが、その間、附屬幼稚園園児としての在籍の繼續を認め、各自の休園中保育料を徴収しません。幼児の休園で幼稚園の休園ではありません。

一、以上は非常警報時に備へるためでありますから、幼児の徒歩にて十分以上の通園者は、之れに該當することゝし、その數は全園児の殆んど大部分に及び、十分以内の通園者二十八名だけが残りました。

一、同時に、同じく改正規則による學校長の権限によつて、隣保幼児の特別期限内臨時入園を募集しました。すべて幼児徒歩十分以内の者に限りましたから、おのづから學校近接の町内の幼児といふことになり、豫めそれらの町會會長諸君と連絡の上、募集にも隣組廻覽板を利用しました。これは募集の便宜をはかると共に、わたくし共の所謂「近所幼稚園」の親し

みを出したい心もありました。

一、從來、わたくし共の幼稚園の入園者は、希望者が都内全區の知的家庭極めて多數に上り、抽籤と簡單ながら心身の檢定によつて、入園は甚だ困難とせられてゐました。又幼稚園としては家庭を選択するといふことはありませんでしたけれども、學校附近の街上に遊んでゐる幼児達、即ち近所の子どもにして、却つて、入園を志望しないものが多いといふ風もありました。これは幼稚園として決して意圖するところではなかつたのですが、一種の慣はしのやうな觀がありました。それに對し、こんどの募集は全く趣を變へ、結果をも變へました。

素より幼稚園の本質として、特に家庭を限定するといふことはしませんでしたが、たとへば、(一)戦歿者遺児、(二)出征家族の幼児、(三)軍需その他増産に多忙なる母の幼児、等に先入權を與へて、八十七名の新幼児を迎へました。

一、之れに加へて、本校内にある特設中等教員養成所生徒すなはち戦歿者未亡人の寮が新たに學校に近く移り來つた關係上、從來はその附設保育所で保育せられてゐた幼児達を、わたくし共の幼稚園に受入れることとなり、戦時幼稚園の貴重なる一中核となつたのであります。

斯くして、わたくし共の幼稚園は、全くの隣保の幼稚園になり、又戦時保育の任務に與るものになり、保育時間も當然家庭の必要に應じて適宜延長せられ、その結果、女子高等師範學校の保育究研所たり、保育實習所たる任が一段と充實せられると共に、戦時下幼児保育の重責が、必ずしも保育所のみならず、幼稚園によ

つて正しく負擔せられることを明かにしたのであります。近時のわたくし共の幼稚園をお訪ね下さる方々は、從來の所謂附屬幼稚園とは外貌を異にせる處あるを認められると同時に、戦時幼稚園として健全なる活動を進めつゝあることを御覽下さると思ひます。わたくし共職員が此の漸方向に沿ふて、如何に緊張してゐるかは申すまでもありません。

○以上、大層長々とわたくし共のことを申し上げましたが、幼稚園では戦時下の保育に盡せないとか、そのためには名稱を保育所に變更しなければならぬとか、甚しきは幼稚園の本質そのものが非戦時的のものであるとか、さまじくの誤れる論議や實施さへ行はれてゐると聞く今日、おまへのところははどうしてゐるかといふ懇篤な感情と、幼稚園そのものゝために憂慮せられる理性とに對し、聊かお心強く御聽取願ひたいと思つての御報告であります。わざと議論を避けましたのも、日本の幼稚園の眞の使命のためにわたくし共が固く保持してゐる信念を、實行として御報告したかつたからであります。お國のこの大切な時に當つて、日本の幼稚園の戦下の御奉公における、正當なる發達と逞しい活動とを希つてやみません。陣友皆さまの御健康を祈ります。

○さて、戦時下の保育にいろ／＼重要な問題のあることはいふまでもありませんが、分けて、戦力増強の方面と、軍人援護の方面だと思ひます。戦力増強のために少しでもお役に立つことの緊急なことは、更めて申すまでもないとして、軍人援護といふ方面から、戦歿者遺児たる幼児、出征家庭の幼児達のために、その家庭保育を補ふて缺陷なからしめることも、極めて重要であります。

○お國のために、直接戦争のために、その父を失ひ、或は父を不在ならしめてゐる場合、その子らないたわり、慰めることは、國

民同志の大きな任務で、國としても大規模な援護事業が行はれてゐますが、幼児のために、特にどれだけ周到のことが、行いつてゐませうか。學童のためには、國民學校といふ施設を通して、またまつた世話も指導も出來易いし、青年ともなれば、學資給與などの方法で、はつきりした援護が出来るのですが、幼児は各家庭の子として、その援護指導のしかたが、時に直接には徹底しにくい事情もありませう。しかし、それだけに、その必要は最も多いでありませう。

○これらの家庭の個々事情はいろ／＼であり、それ／＼に従つて援護の方面も違はざるを得ません。經濟援護の必要の場合も少くありますまい。しかし、その最も明かなのは、母の多忙といふことであり、その最も深刻なのは片親といふことであります。母の多忙の方は、たとへば、授産場に附設せられてゐる託兒所の如きその施設でありまして、その場合、またまつた世話の出來る便宜もあるといへませう。しかし、そいふ施設が、往々にして、授産事業を主體とするために母の働いてゐる間の「預り場」といふ、一種の附隨的便宜施設と考へられて、幼児保育そのものとして充分に意も方法も盡されなかつたりすることがあります。これは、是非幼児保育本位の考へで力を籠められなくてはなりません。

○片親といふことに就ては、その幼児の教育上、最も深い注意を要する點であります。片親たることその事が直に教育上の缺陷になるといふのはわりません。殊に、この場合、父は名譽の英雄であります。そこに寧ろ積極的意義もありませう。しかし、家庭としては特別な形態で、そこに保育上注意すべき問題の伴ふことは免れますまい。わたくし共の幼稚園の今の一つの大きな研究がここにゐることも、序に御報告して置きます。

艦上戦闘機「日本幼児號」命名式に列して

— 獻納金寄託の皆さんへの報告 —

倉 橋 惣 三

昭和十九年九月二十日。第五回航空日。海軍大臣による報國號飛行機命名式が行はれました。この日命名せられる報國號飛行機は二百九機。機種によつて分かつては、艦上戦闘機百三十五、艦上爆撃機七十三、陸上攻撃機五。われらの「日本幼児號」は其の艦上戦闘機の一つであります。

谷松竹株式會社社長、兒童代表(東京都誠之國民學校初等科第二學年北澤のぶ子さん)が列し、その後方が海軍軍隊になつてゐます。

式典は午前十時から左の次第で行はれました。

豫て海軍省からの案内によつて、その朝、式場たる新橋演舞場に參集しました。各機獻納者代表の席を前部にして満場着席。壇上正面に、艦上戦闘機、陸上攻撃機、艦上爆撃機の威風勇壯たる大寫眞が掲げられ、白幣嚴かな神木ミ獻饌の高脚臺が供へられてあります。その前方、向つて右手に海軍大臣(代理井上海軍次官)、命名式委員長(栗原海軍大佐)、左手が齊主(靖國神社高原權宮司及び神宮諸氏)、獻納者代表機種別總代(「艦上戦闘機」岡田衆議院議長、「艦上爆撃機」中澤全國聯合國民學校職員會會長、「陸上攻撃機」(村山朝日新聞社長)祝辭來賓(田邊大日本飛行協會會長、大

- 一、開 式(大臣入場)奏樂
- 一、國歌奉唱(一同起立)
- 一、修 祓(一同起立)
- 一、降 神(一同起立)
- 一、獻 饌(奏 樂)
- 一、祝 詞(齋 主(一同起立))
- 一、命 名(海軍大臣(一同起立))
- 一、玉串奉奠(齋主、海軍大臣、獻納者代表總代、命名式委員長、來賓代表)
- 一、神符受納
- 一、徹 饌(奏 樂)

一、昇 神(一同起立)

一、海軍大臣ノ獻納者ニ對スル感謝狀授與並ニ謝辭

一、祝 辭

一、壯途ヲ送ル辭(兒童代表)

一、齊 唱(命名式ノ歌)(報國ノ翼)

一、萬歳奉唱(一同起立)

一、挨拶(命名式委員長)

一、閉 式(大臣退場)奏樂

式の間、二つのこみが私の頭に交々徂徠してゐました。

その一つは、わが「日本幼児號」の第一線に於ける勇姿であり、その一つは、この獻納者たる全國の幼兒の純真可憐なる愛國心に充ちた顔であります。

戦局の急、殊に海軍飛行機が征いて闘ふ戦闘の背烈は、今や實に言語に絶するものがあります。攻めるも防ぐも、制空權を先決とし、體當り空爆を精魂とする今日、わけても物量侮り難き敵に對して、飛行機の數ミ一機々々の威力こそ、繫つて勝利の中心になるまいはれてゐます。わが「日本幼児號」は、この命名式と共に、その大いなる任務に武者振ひしてゐるのであります。この機が勇敢にして熟練なる勇士の搭乘によつて、所謂人機一體、縦機無盡の奮闘を敢行する日は最近のこみであります。或は明日、否今日か

も知れません。

飛行機の増産は夜を日について強行せられてゐます。日に如何に多數が前線の敵を目がけて飛び立つて征つていつてゐるこみでせう。その中で、國民の獻納にかゝるものを、陸軍では愛國機ミ呼び、海軍では報國機ミ呼んでゐるのでありますが、共に熱烈なる國民の盡忠精神の結晶であるこみに變りはありません。そして、それらの獻納者團の名が機名ミして機翼に録せられ、捨身盡忠の若人ミ共に、決戦に向つて羽ばたきして飛ぶのであります。なんたる光榮であります。しかも、敵機を空上に捕捉して之れを墜し悠々ミして無事歸還するを快ミするミ共に、又時に、敵ミ相撃つて自ら傷つき破るゝを一段の譽れミするこみもありませう。わが艦上戦闘機「日本幼児號」の勇壯なる使命も亦、之れに他なりません。私の頭を廻轉する想像も亦、そこに到つて胸をつくものあらざるを得ません。その時、司會者の説明は私さにも斯ういふこみを告げました。戦場に於いて報國機が傷つき破れた時は、更に同じ機名を新たな機に録して、第二代第三代に及ばしめ、永久に此の機名を繼續保存せしめるまいのであります。こういふこみは私は今日始めて知つたこみでありましたが、なんたる海軍の深い心づかひであります。同時にまた、その機ミしてなんたる名譽のこみであります。あゝ皆さん、「日本幼児

號」は斯くて永久に、生れ代つて國に盡すのであります。私は勿論第一代「日本幼児號」の武運長久を祈ります。しかし、七生報國を如實にし得る「日本幼児號」の幸福を喜んでやらずにゐられません。征け「日本幼児號」。爾は生きるも死するも、字義通りに不滅の名なのである。

こうした壯絶な想像を參差して、式中私の頭に浮び來るものは、全國の幼児の可愛い、しかも眞剣な顔でありました。初めて日本幼児飛行機獻納の計畫を提唱しましてから、全國幼稚園、保育所の熱意ある賛同は力強いものでありまして、それ／＼諸先生の協力の賜でありましたが、當の主體は素より幼児であります。拾萬圓の中には先生、保護者の参加も少なくありませんが、その中心は幼児であります。その幼児は「ボクラノヒコウキ」の出來ることを喜び、それが空を飛ぶ日を待ち、子さも心に誠を籠めて獻金したのであります。私の恣な想像は、この完成した「日本幼児號」の勇姿を全國の幼児に見せることが出來たらさも想つてみました。せめて私達の目に實物を見て、その報告を幼児にする。ことが出來たらなぞさも想つたりしました。しかし、今日の戦局勢は、昨年までの如く、此の命名式を飛行場に於て擧げる。ことが許されないのであります。私達は、正面の大寫眞にその活きた勇姿を描くのであります。がまた想ふに、幼児達の活潑な想像は、私達以上に活き

活き、この機の勇姿を描いてゐるに相違ありません。その可愛い、そして眞剣な澤山の顔が、重りあつて私の想像の目に浮んで來るのであります。今日集つてゐる各方面の獻納者代表の中で、私こそ一番幼年の日本國民の代表者である。ことを、如何に光榮さしていゝか知りません。全國の幼児諸君、あなた方の純眞な愛國の情は、今日この美しい艦上戦闘機の魂になつてゐるのであります。

式終つてから、式中に代表總代に授與せられた海軍大臣の感謝狀に、「日本幼児號」の大寫眞一葉が頒たれました。その感謝狀には次の如くあります。

感謝狀

一、艦上戦闘機

壹基

今次大東亞戰爭ニ際シ國防充實ノ趣旨ニ依リ右製作資金ノ獻納ヲ辱ウシ感謝ニ堪ヘズ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表ス

昭和十九年九月二十日

海軍大臣 米内 光政

日本幼稚園協會

代表 倉橋惣三殿

代表としての宛名は献金手續の事務上倉橋になつてゐますが、この感謝狀が献納者全體の方々であることは申すまでもありません。又、大寫眞は便宜上、東京女子高等師範學校附属幼稚園に掲げて、全國の方々の上京の機會御覽下さるのを待つ事しました。横八四・四厘、縦五八・六の大寫眞で、ビンミ張つた兩翼下の日の丸の傍に「報國——4471——（日本幼児號）」幅一ぱいに大きい文字で錄されてあるのが明瞭に見えます。尙寫眞の下部にも「報告第四

四七一號（日本幼児號）〔艦上戦闘機〕海軍省 横書きされ

てゐます。白雲美しくたなびく碧空の下、三脚は地上に爪立てる如く、プロペラの一片は眞直ぐに天を突いて、英姿誠に颯爽たるものであります。尙命名式當日は急の案内でありましたのミ、代表以外二名の同伴さいふこことでありましたので、廣くお誘ひ合はずこも出來ず、私共共會の及川、野間兩君が皆さんに代つて參列されました。この段御諒承を願ひ置きます。（九月二十日記）

飛行機獻納金追加

「日本幼児號」飛行機獻納手續終了後、次の方々の獻金が到着いたしました。これ等は、御意志により、本協會の名で、「飛行機獻納金」として海軍省へ獻納致しました。

- 四五〇〇 山口市茶畑 龜山 幼稚園 代表 倉田ミチ
- 二二一、〇〇 釜石市愛宕町 釜石中央保育園
- 一一〇、一〇 釜石市中妻 中妻子供之家保育園
- 七〇、六六 釜石市外小佐野 小佐野保育園
- 一〇〇、〇〇 澁谷區常盤松町五 實踐幼稚園
- 一一五、〇〇 市川市菅野 日出學園幼稚科 代表 土屋マサ子
- 三五〇、〇〇 三島市田町 三島市立幼稚園 代表 必 佐 幼稚園
- 五〇、〇〇 滋賀縣蒲生郡北比都佐村

計 一〇八一、七六

以上の獻納手續終了後又左の二名の方々から御送金がありました。この分は各々その代表の方のお名前前で、やはり「飛行機獻納金」として海軍省へ獻納いたしました。右御報告と同時に、御好意を感謝いたします。

- 二二二、〇〇 満洲國鞍山南十條十五 鞍山大和幼稚園 代表 高橋 壽子
 - 一〇〇、〇〇 臺北市錦町一三六 錦 幼稚園 代表 竹下 ヲル
- これをもつて、飛行機獻納金のお取次は一應打ち切り度いと思ひます。

昭和十九年十月

日本 幼稚園 協會